京都教区時報

京都教区広報委員会
（編集長　村上透磨）
京都教区本部事務局
京都市中京区
河原町通三条上る
TEL 075－211－3025
FAX 075－211－3041
honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page http：//www.kyoto.catholic.jp　4345

2021年　司教年頭書簡を受けて

第7回　生きる秘跡

今年の年頭書簡で、「生きる秘跡」について述べられています。そして、愛を生きることが強調されています。

コロナ禍にあって、多くの人がミサに参加することができない状況に置かれています。参加できても、今までのような交わりができません。こうした状況の中で最も大切なことは、神のみことばを分かち合うことだと思います。それで、物理的に離れていても、同じみことばを分かち合い、そのみことばに応えて祈る、祈り合うことを実行してきました。私の「ことばの祭儀」の動画配信は、その一つです。「ことばの祭儀」の共同祈願では、一人ひとりの願いをささげるための沈黙の時間を大切にしてきました。「皆様のために、いつもお祈りしています。離れていても、祈りでつながりましょう」。そんなメッセージを繰り返してきました。

こうした共同体体験を通して、今、「生きる秘跡」が実現しています。七つの秘跡が執り行われる時、みことばが分かち合われ、祈りがささげられます。ことばの典礼無しのミサは考えられません。聖体拝領には、主の祈りと平和のあいさつ（キリストの平和の分かち合い）がともないます。こうした祈りとみことばによって、秘跡を受けるだけでなく、秘跡を生きるようになります。秘跡の恵みを、共同体の姉妹兄弟と、毎日の生活で出会う人々と分かち合うようになります。そして、私たちが「生きる秘跡」となって、人々にキリストのいのちを与えるようになります。キリストが愛するように、まわりの人を、すべてのいのちを愛するようになります。愛したいと、心から願うようになります。

コロナ禍が終息しても、みことばと祈りを大切にしていきたいと思います。みことばを分かち合えること、祈り合えることに、感謝し続けたいと思います。当たり前だと思わずに、感謝し続けたいと思います。祈りという恵みを与えてくださる主に、感謝し続けたいと思います。共に祈ってくれている共同体の仲間に、感謝し続けたいと思います。

京丹ブロック担当司祭　一場　修
（マリスト会）

十字架と桜（西院教会）

8
2021

聖ヨセフと共に

シスター山本久美子
（聖ヨゼフ修道会）

聖ヨセフと少年イエスのご像に接吻する
教皇フランシスコ

「ヨセフ年」と『愛のよろこび』家庭年」にあたって、聖ヨセフは中心的な役割を担う人物です。

教皇フランシスコは、使徒的書簡「父の心で」の中で、「私たちの人間的境遇にきわめて近い」ヨセフこそが、「この新型コロナウイルスのパンデミックの苦難の時に支え、導いてくれる人、執り成してくれる人」であり、「この危機のただ中で、誰もが、救いの歴史の中で、比類なき役割を担っていることを思い出させてくれる」と記しておられます。

ヨセフは、「沈黙の聖人」と呼ばれ、聖書も彼について多くを語っていませんが、イエスを最初に信仰と愛をもって育て、彼の品性を養った家族の存在は、イエスの生き方や人生に随一のインパクトを与えたと言わざるを得ません。

信仰の模範

イエスの養父として知られるヨセフですが、マルコによる福音6章3節の「この人は大工の息子ではないか」というイエスに対する人々のつぶやきから、ヨセフがごくごく「普通の人」であったことがわかります。

マタイによる福音は、ヨセフが、自分と一緒にならないうちに聖霊によって身重になった妻マリアを受け入れた経緯を記しています（1・18―25）。マリアの妊娠を知らされた時、「正しい人」ヨセフは、律法に従い、自分の子供ではない子供を宿したマリアとの離縁を考えました。しかし、夢で主の使いのお告げを受け、眠りから覚めて、天使に命じられたとおりにしました。ヨセフは、普通の人間として、当然動揺し、マリアに対しても不信や憤り等の感情を抱いたに違いありませんが、そのような人間的感情を超えて、天使の言葉に従いました。「眠りから覚める」とは、自我に死んで、神のみ旨を識別し、自らその道を選び取ったことを意味していると思います。ヨセフは、その後の自分の人生に何が起きるか理解できないまま、自分のいのちの危険を顧みず、自分自身を与えるようにとの神の呼びかけに応えたのです。

「ダビデの子ヨセフよ、心配しないで
マリアを妻として迎えるがよい。」
（マタイ1：20）

ヨセフは、イエスの公生活には、全く登場しません。しかし、イエスは、自我に死んで神のみ心に従い、どんな苦境にあっても自分のいのちを護り、支えてくれたヨセフの父としての深い愛情と信仰者の生き方に根底から支えられ、自身の使命に目覚めて、宣教活動から受難と十字架上の死に至るまでの道のりを歩み通したのです。ヨセフはイエスの人間の父

親以上の父であり、イエスの「信仰の師」であり、また、同時に、キリスト者としての道を歩み続ける私たちの「信仰の模範」だと思います。

「愛のよろこび家庭年」
2021年3月19日～2022年6月26日

教会の保護者

教皇フランシスコは、使徒的勧告「愛のよろこび」の中で、「教会は、家庭の中の家庭であり、すべての家庭教会が持ついのちによって、たえず豊かにされる」（87）と言われ、さらに「家庭の交わりを深く味わうことが、日常生活を通じての聖性と神秘的な成長のための真の道であり、神と親しく結ばれるための方法である」（316）と断言されています。

今、このパンデミックのさまざまな制約の中で、教会も、「交わり」というアイデンティティの危機に揺さぶられていますが、聖ヨハネ・パウロ二世教皇も、使徒的勧告「救い主の守護者聖ヨセフ」の中で、「愛をこめてマリアの世話をし、喜びをもって献身的にイエス・キリストを養った聖ヨセフは、今も同じように、キリストの神秘体である教会を見守り、保護しています」と、聖ヨセフへの厚い信頼を表しました。

家庭とは、あらゆる共同体の基盤であり、聖ヨセフは、150年も前から「教会の保護者」と宣言されています。ヨセフは、夫として父親として、聖母マリアとイエスに仕え、彼らとの間に神を中心とする深い絆を育み、神への信頼と希望によってしっかりと結ばれた家庭を築きました。イエスも、母マリアとヨセフとの日常生活の中で、また両親のありのままの姿から、ごく普通の家庭のよろこびを体験し、具体的ないろいろな問題に直面されました。そのような当たり前の日常の中で、イエスの品性が養われ、人生の土台がつくられたのです。

人間の父親として、深い愛情をもって、何ら血縁関係を持たないイエスを育て、自身もその家庭の交わりの中で真のよろこびを見出したヨセフは、今も教会に、私たち一人ひとりに、真の家庭、交わり、よろこびとは何かを教え、示してくださいます。

ふり返り

①今、このパンデミックの現実の中で、神はどこにおられ、どのように働いておられるのでしょうか。ヨセフのような働きをしている人に気づいていますか。自分自身の使命、役割に気づいていますか。

②今、私たちの生活と、家庭や教会との関係性の中で何が起きているでしょうか。私は、個人として、家族として、教会共同体の一員として、何ができるでしょうか。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

福音宣教企画室作成の動画「聖ヨセフと共に」をご覧ください。左のQRコード、または京都教区ホームページ「京都教区みんなの部屋」福音宣教企画室のYouTubeからどうぞ。

聖ヨセフと共に
「信仰の模範」

聖ヨセフと共にⅡ
「教会の保護者」

正義と平和協議会 学習会報告
私たちは今ここにいる
――日本の移民問題とは何か――

報告　佐藤　恵

京都教区カトリック正義と平和協議会では、2021年6月5日（土）、カトリック河原町教会において、日本の移民問題についての学習会を開催しました。

講師は、**「移住者と連帯する全国ネットワーク」代表理事の鳥井一平さん**です。

新型コロナウイルス感染拡大防止のために発出された緊急事態宣言のさなか、感染防止に十分な注意を払いながらの開催でした。問題の重要性が反映されてか、教会外からも多数参加された学習会でした。

■歴史的に必要とされたからこその「オーバーステイ」

バブル経済に沸く1980年代以降、日本には、仕事を求めて新たに多くのアジアの人たちが移住するようになりました。彼ら彼女らの労働力が必要とされ、仕事があったからです。彼ら彼女らは不足する厳しい労働条件での労働の担い手として、日本経済の発展を支え、職場や地域の仲間として、結婚をし家庭を持ち、社会に根づいていったのです。当時の日本はその労働力の必要性から、ほぼオーバーステイ容認といえるような政策を取っていました。現在入管に収容されている大多数の人たちが、そのような歴史の中で日本人がやりたがらない仕事を担い、地域に溶け込み、日本経済を支えてきた人たちです。元の国に生活の基盤はすでになく、日本にいることが自然な人たちに、ひとたび不景気になり都合が悪くなると「不法だ」といって取り締まっているのが実態です。

■日本政府の欺瞞によって不法就労は作られている

日本政府は、彼ら彼女らの労働力を必要としているにもかかわらず、正当に就労できる在留資格（就労ビザ）を作ろうとしません。だからこそ、先のような「不法」という問題が出てくるわけです。現在は、「開発途上国への技術移転である」という名目での技能実習制度として受け入れた人たちに、その矛盾のしわ寄せが、看過できない人権侵害として現れています。

■目を覆いたくなるような実態

講師が相談を受けたケースを紹介してくださいました。

バングラディッシュ人の青年が、安全装置のない金属プレス機に挟まれ指を3本も失ったのに、労災申請をしてくれない雇用者。縫製工場では、ほぼ一日中仕事をさせ、なおかつ残業代は時給300円。愛知県の某自動車メーカーの下請け工場では、労働条件の改善を要求した人たちに、トイレに行ったら1分につき15円の罰金を取るなど。

なぜこのような状況で辞めるといえないのか。技能実習制度では、実習生が「前借金」を課せられていることが多いためだということです。そのため、辞める＝帰国させられる＝借金生活という未来が待っているので、劣悪な条件でも我慢して働かざるを得ないのです。

この、雇用側と働く側の圧倒的な力の差は、よほど意識をしていないと、相手を対等な人間としてではなく、ものとして見てしまうことが当たり前になり、いい人で通っている雇用主を悪人に変えてしまう魔力を持っているということでした。

2007年、アメリカ国務省の「人身売買年次報告書」が、「日本の外国人研修・技能実習制度は問題だ」と指摘したことから、この問題が注目されるようになりました。

■これからの移民社会　私たちのできること

そもそも、一方的に搾取する側と搾取される側に隔てられた、国家間の経済的格差を埋めていく取り組みは重要ですが、時間がかかります。

技能実習制度でいうならば、取り急ぎ、不当に搾取されている技能実習生の救済が必要です。その次に本質的な解決は、技能実習制度を辞めることです。実態に即した、労働者受け入れ制度として、日本の労働法が適応される制度にすることです。

外国人労働者には、国際的な人権基準にあるように、生活者としての「家族の統合権」を認めることも必要です。

身近なところから言えば、「外国人に仕事を奪われる」、「健康保険をただ乗りされている」などという、デマやフェイクに惑わされない知識を、私たちが持つことです。この社会がすでに移民で成り立っていることを認め、彼ら彼女らが、自分自身と同じように幸福を享受する権利を有する隣人だと理解することが必要なのです。

教会をよりどころとされている方も少なくないとのこと。声をかけ、等しく共同体を構成するメンバーとして連帯していかなければならないと感じました。

最後に、「入管法改正案」の、今国会での成立が見送られたことについて、名古屋出入国在留管理局に収容されていたスリランカ人女性が3月に死亡したことにより、入管行政に対する国内外の世論の反発が高まっていた影響が大きいとされています。講師が国会前で抗議をしていたところ、彼ら彼女らと職場や暮らしの場を共にする人たちが、大切な同僚、隣人を守るためにとやってきて、抗議に加わる人が日増しに増えていったことを紹介してくださいました。すでに市民レベルでは、彼ら彼女らがかけがえのない隣人だとの認識が広がっていることに、大きな希望を感じると締めくくられました。

等しく神がおつくりになった被造物同士、地球的な視点で、だれ一人取り残されることのない社会を築いていきたいものです。

宗教法人カトリック京都司教区　職員募集

カトリック京都司教区では「社会福祉法人カトリック京都司教区カリタス会本部事務局長候補」を募集します。宗教法人カトリック京都司教区の職務も一部担当していただきます。

【歓迎するスキル・経験】

●社会福祉法人職務経験者で、ワード・エクセル等のパソコン作業に堪能な方

応募資格・45歳以上　60歳まで。62歳までは応相談
採用時期・随時（応相談）
勤務場所・（宗）カトリック京都司教区本部事務局
京都市上京区新町通一条上ル一条殿町502―1
カトリック西陣教会青年会館内
（数年後に中京区河原町通三条上ルのカトリック河原町教会内に移転します）
待　遇・当法人規定による。社会保険等完備
応募方法・募集要項をお送りしますので、honbu@kyoto.catholic.jp 宛に、氏名と送付先のご住所をご連絡ください。
選考は書類審査の後、面接を予定しています。
お問合せ・〒602―0934
京都市上京区新町通一条上ル一条殿町502―1
カトリック西陣教会青年会館内
（宗）カトリック京都司教区　採用係
TEL　075―211―3025

乾隆神父のイタリア留学記(6)

京都教区司祭　大塚乾隆

この原稿が時報に載る時は、一年目の試験を終えて、楽しく夏のバカンスを過ごしていることを信じています。昨年の十月から始まった一年目をおそらく無事に終えるにあたり、一応本業の大学での勉強について、感じたことを分かち合います。

「食わず嫌いだったなぁ」というのが正直な思いです。日本だけではなく、世界的に？　教会法は嫌われもののように思っていました。でも、グレゴリアン大学の授業は背景を詳しく説明してくれます。粗く説明するなら、「総合教会史」という感じでしょうか。

神学生の時の勉強は第二バチカン公会議が前提になっていて、その上でいろんなことを学びました。六年目にしてようやく「点と点がつながって線になりつつあった」ことを思い出します。今の勉強は、「第二バチカン公会議に至るまでを大まかに追っていく」ので、神学生の時が二次元だったとしたら、今は三次元の世界でいろんなことがつながっていく感覚です。水面を泳いでいたところから、ダイビングを始めたような感じでしょうか。少し難しい話になりますが、第二バチカン公会議で改めて「教会は神の民である」と言われるようになりました。そこにいたるまでざっくり二千年の歴史を追っていくのは、とても興味深いです。テストがなければさらに最高なのですが。

長い時間をかけていろんな制度やルールが決められていきますが、今の勉強は「なぜ、そうなったのか」ということを学びます。私は京都に長くいましたので、「京都は平安時代から続いている都で、天皇さんはちょっと江戸に行ってはる」と半ば冗談で言っていました。でも、良くも悪くも、キリスト教の歴史はそれより古いことを真面目にやっているのです。例えるなら、「今の○○って制度は、卑弥呼の時代にその原型ができて、大化の改新でちょっと修正されて、鎌倉時代に…江戸時代に…それで第二バチカン公会議になって」みたいなことを大真面目に勉強します。また、日本にいてはピンときませんが、結局ヨーロッパ諸国の統治機構と絡んでくるので、ある意味で人間の「愚かさと欲」が出てきて、それを改革しようとして…の繰り返しなので、滑稽さという点でも面白いと言えば面白いのです。結果だけを覚えていくのではなく、そこには必ず当時の人たちの状況があったことを想像しながら歴史を追っていくと、「なるほど」と思うことがたくさんあります。さらに、ヨーロッパの視点と時間軸で歴史を見るので、日本の迫害や殉教、再宣教の見方も必然的に変わってきます。

もちろんここまで書いたことは、私の限られた語学力の範囲で理解したことなので、本当はもっともっと奥深いでしょう。実際にグレゴリアン大学で学び始めるまでは、教会法は「面白くないもの」というイメージしかありませんでした。でも、実際に学んでみることで楽しくなってきました。機会を見つけて、学んだことを分かち合っていけたらと思っています。

しかし、私たちはイエスさまを中心とする霊的なつながりがあって、それを前提として組織や制度があることを忘れてはいけません。その意味で、私が「お役人さん」にならないためにも、こちらでの小教区体験や、日本にいる方々とのインターネットを通しての聖書の分かち合いは、私を潤してくれる大切な機会になっています。

教皇庁立グレゴリアン大学
1551年イグナチオ・ロヨラが創立

トマのつぶやき

「三密は避けるべきもの？」

三密を避けよ避けよと叫ばれる時、親密さはどこに拡散したのでしょうね。

三密とは、本来、仏と衆生が結び合い、衆生の行いに応じ、仏が慈悲心を持って応える。行ずる者が信心により、仏の具現を感得することにある。その結び合いは、悟りを身に帯び（身密）、真言（みことば）を口に唱え（口密）、本尊の観想（意密）により、衆生と仏が結び合うとある。仏をキリストに変えれば、これは見事に福音のメッセージとなる。

神との親密に至るためには、真の祈りが求められるが、観想がその頂点にある。神を思い、考え、黙想し、神に心を開いてみことばを聞く時、神の姿が観えてくる（観想）。観想に至れば、人はもはや祈りさえせず、ただひたすらに神を観想するのです。愛がこの「窒息」を解放（開放）し、その開かれた窓からは、神の光と風が流れ込む。詩人はそれを詩うのです。詩人は、心の祈りを詩うのです。親密が始まります。

広報委員会
担当司祭
村上透磨

2021年5月2日（日）夜、望洋庵との合同ミーティングをオンラインにて行いました。両機関の運営委員の紹介、活動報告、年間スケジュールの共有などを行いました。交流の様子を一部録音し、「オンラインじょばに」の Sharing Space として青年センターのホームページに掲載します。この日の喜びと楽しさが、多くの人に伝われば…と考えています。ぜひ、ご覧ください。

望洋庵と青年センターは同じ敷地内に拠点があり、活動内容の一部に共通点があり、近しい存在でありながら、互いが交流をもつ機会はほとんどありませんでした。今回、このように運営委員同士での交流ができたことは、これからの活動をよりよい方向へ導いてくれるものとなったように思います。今後は、両機関がそれぞれにもつ魅力を発揮し合いながら、合同企画を開催することも予定しています。京都教区、大阪教会管区の青年活動が、より一層豊かなものとなるよう、ワクワクしています！

青年の皆さん、共に盛り上がっていきましょう！ そして、京都教区の皆様、青年活動が実りあるものとなるように今後もお祈りください。また、ご理解とご協力をお願いいたします。

運営委員／伊勢教会　**濱口　聡子**

大塚司教の８月のスケジュール

新型コロナウイルス感染症の影響のため、スケジュールが変更される場合がありますので、最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。

８月のお知らせ

教　区

信仰教育委員会

教会学校研修会

日　時：28日㊏ 10:00〜11:30
講　師：大塚 喜直司教
対　象：教会学校リーダー、大人の信仰教育に携わっておられる方、および18歳以上で教会学校の活動に関心のある方
問合せ：メール/shinkoukyoikuiinkai@gmail.com
Fax/075(366)6679
※オンラインで開催。案内・申込方法は各小教区あて、一斉メールにて配信済。

正義と平和協議会

第14回　戦争と平和写真展
「沖縄・フクシマ・核（広島・長崎の記録）」

日　時：７日㊏ 15:00〜20:00
（ミサ中止の場合は17:00まで）
８日㊐ ７:00〜15:00
（ミサ中止の場合は10:00〜15:00）
会　場：河原町教会 ヴィリオンホール
入場無料
問合せ：075(366)6609㊋㊍

広報委員会

お知らせに載せたい情報は、原稿締切り日までに教区本部事務局宛
・メール/honbu@kyoto.catholic.jp
・Fax/075(366)6679
発信者のお名前を明記の上お寄せください。

※ 10月号の原稿締切り日は８月23日㊊です。

ご紹介

パウロ大塚喜直ラジオトーク

大塚司教の主日の説教を聞くことができます。

京都チェジュ姉妹教区交流委員会

ブ・ヨンホ神父、チェ・ソンファン神父、キム・デジョン神父からのビデオメッセージが視聴できます。
（教区のＨＰに掲載）

ブロック

奈良ブロック

オンライン聖書講座（YouTube）
すべてのいのちを守るためⅡ
コロナ時代を生きる信仰（年頭書簡）
（全３回７〜９月毎月１回）
講　師：大塚 喜直司教
第２回配信日：14日㊏
奈良ブロックＨＰからどなたでも視聴できます。

奈良ブロックHPはこちら

諸　団　体

京都カトリック混声合唱団

練　習：１日㊐ 14:00　15日㊐ 14:00
洛星宗教研究館
28日㊏ 18:00
ミサ奉仕後 河原町教会聖堂
現在活動休止中。再開時、団員には連絡します。
問合せ：075(951)4283 則武　隆

コーロ・チェレステ（女声コーラス）
練習は例年通り夏休みです。
問合せ：075(701)3303 岡田久美

カトリック京都働く人の家（九条教会内）
定例会：８日㊐ 15:30〜17:30
対　象：15歳〜35歳の方　どなたでも
問合せ：090(8207)1831 瀧野正三郎

心のともしび　ラジオ番組案内
（全国34局で放送）
ＫＢＳ京都　㊊〜㊏ 朝５:55
㊏ 朝５:15
ラジオ関西　㊊〜㊏ 朝５:00
㊐ 朝６:05
８月のテーマ「ともに生きる」

点訳版「京都教区時報」〈無料〉ご希望の方は『カ障連大阪フレンドリー点字部』嶽崎（たけざき）裕子さんまでお申込みください。
Tel・Fax/079（431）8601